

## 「よろず生き物係」西脇さん

元一般財団法人日本鯨類研究所参事、鯨類調査及び南極海鯨類捕獲調査に延べ19回参加。生物研究家「よろず生き物係」として学校での講師や各種ご講演などで活躍されてきた西脇茂利さんがご来園下さいました。

**学園長:**「保育士免許も持っているとお聞きし、びっくりしているのですが…」

**西脇氏:**「地球環境に結び付く自然の恵みや食の大切さを子ども達にどう結びつけたらいいのかと、最初は調理師免許を取得しましたが、行きつくところは、生物や自然の大切さを子ども達にとたどり着いた経緯があります。」

**西脇氏:**「ところで学園長も自転車ロードの日本代表だったと聞きましたよ?園を継ぐという経緯はわかりますが、どうしてビオトープを作ろうとされた?」



**学園長:**「中学高校社会の教諭免許を保有している理由が、もともと地理への興味にありまして。それがヨーロッパの広大な街並や自然を駆け巡るTour de Franceに視点が向き…。あと、本来一番好きな趣味が釣りやアウトドアというように、若かりし頃からの経験則による学びの大切さを思い返しつつ幼児期の教育に携わっていると、森のようちえん教育のような狙い同等に脳の育成段階において非常に重要なコンテンツになるという位置づけで…」

**西脇氏:**「大地、自然、生命、育ち、なんとなくつながりますね。」「研究肌に灯がともっちゃったわけですか。」 etc…

実はもう3度目のご訪問。「土曜講座的なイベントも企画しましょうか」などなど、小学生から大人までが、ビオトープをはじめ学園に備わる様々な自然環境に触れたり、活用したりと、「そういった活動も有意義ですよ」とお話を重ねてきたのですが、想いはかみ合い、地域の環境研究をはじめ自然環境教育や体験教育の推進に力を入れたいと感じている学園長とともに、グループ全体の生き物系アドバイザーボードとして地域社会教育活動にご協力下さることとなりました。来年度より月に数度か「生き物係」として学園にいらっしゃる予定で、むさしのグループ各園のカリキュラムや日常の活動の中に取り入れていくか否か、各園長先生らをはじめ、保育教諭にも情報提供をしていきたいと思っています。



今回の打ち合わせ時には、水産資源調査活動にて使用されていた様々な標本、水中探索の機器や備品などを学園に置いていって下さったのですが、これらは、活動の中で活用させていただく予定です。まずは、今月3月24日、地域の有志の皆様によるイベント、「MEGURITA GARDEN」にて、「春のビオトープ観察会」や「ビオトープの池の中を覗こう」企画をやりましょうかと、準備に入ろうと考えています。

卒園してってしまう年長さんや、ひそかに発足しているビオトープマスターさんらは、とても残念に思うかもしれませんが、企画の際は、学園のInstagramやFacebookにて公報をしますので、時折でもチェックしてみてくださいね。

学園長



学校法人野澤学園  
東村山むさしの認定こども園 GROUP  
<https://musashino-group.tokyo/>

